

# 消費者ネットワーク

2005年7月1日

第97号

全国消費者団体連絡会  
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ



ニット地（綿100%）の半袖シャツをクリーニングに出し、失敗した。薄いブルーのそれは、汚れが落ちるところか、全体的に薄汚れた感じになり、しかも汗染みが白く浮き立って帰ってきた。当然、やり直してもらわなければと思ったが、やめることにした。以前、白いブラウスで同じようなことがあり、洗い直してもらったために、かえってひどくなってしまったことを思い出したからである。クリーニング店に苦情は言ったが、シャツは自分で手洗いすることにした。洗ってみてびっくりした。洗濯水がひどく汚れたのである。つまり、クリーニングに出してもきれいになっていなかったということになる。多分ドライクリーニングされたため、水溶性の汚れが落ちなかったのではないだろうか。それどころか、他からの汚れがついてしまった可能性さえある。

最近、夏物衣料にもドライ表示が非常に多いと聞いてはいたが、手持ちのブラウスやポロシャツ、Tシャツなどを調べてみて、本当に驚いた。特殊加工の染色を施したブラウスとビーズ使いのTシャツ以外は、全てドライ表示だった。綿・麻が100%の物、綿とナイロンやポリエステル、ポリウレタンなどの混紡の物など、全てである。

ドライクリーニングは揮発性の有機溶剤を使った洗浄法で、水洗いによる収縮や色落ち、変形などを生じやすい衣類に適するとされている。また、油脂汚れには適するが水溶性汚れは落ちにくい洗浄法でもある。夏物衣類はほとんどが汗などの水溶性汚れのはずだし、水洗いのほうが適していると思われる繊維まで、なぜドライクリーニングなのだろうか。おそらく、水洗いによるトラブルを避けたいということなのだろうが、汗染みができたり、汚れが落ちないようでは本末転倒である。国民生活センターによると、クリーニングの苦情は後をたたないという。洗濯の外部化が急速にすすむなか、輸入衣料品も含め、「洗濯取扱絵表示」の見直しが必要なのではないだろうか。

これまでに何度もいろいろな被害にあいながら、手間を省くため、つついクリーニングを利用してきた。しかし当面は、大切なものや夏物くらいは自分で洗おうと思う。

## もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
ちょっと気になる農薬のはなし 消費者のためのシンポジウムが開催されました	・・・p.2
橋梁談合を消費者・市民は決して許さない	・・・p.4
消費者機構日本「契約トラブル110番」を実施	・・・p.6
金融商品・サービスについてのトラブルは？	・・・p.7
「クールビズ」だけでなく、具体的な地球温暖化防止の取り組みを	・・・p.8
ISO COPOLCO 第27回総会が開催されました	・・・p.9
会員団体の活動紹介	・・・p.11
お知らせ・編集後記	・・・p.12